



# 第148期 中間報告書

(平成23年4月1日～平成23年9月30日) 証券コード: 7731

株式会社 **ニコン**

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社グループ第148期上半期（平成23年4月1日～平成23年9月30日）の事業の概況並びに連結決算についてご報告申し上げます。



取締役会長

荻谷道郎



取締役社長兼社長執行役員

木村真琴

## 当上半期の概況

当第2四半期連結累計期間の経済状況は、米国及び欧州は回復傾向を示し、アジアは中国を中心に拡大が続きましたが、わが国は東日本大震災の影響により非常に厳しい状況となりました。

事業別では、精機事業においては、半導体・液晶関連市場ともにメーカー各社の堅調な設備投資が継続しました。

映像事業においては、デジタル一眼レフカメラ市場は国内を除き拡大しましたが、コンパクトデジタルカメラ市場は縮小しました。

また、インストルメンツ事業においては、バイオサイエンス関連が公共予算の執行を見直す動きが顕在化する厳しい状況となりましたが、産業機器関連では設備投資が堅調に行われました。

こうした状況の下、当社グループといたしましては、震災後のサプライチェーンの早期再生・強化に取り組み、電力使用量の削減も行いつつ製品の安定供給を実現しました。また、市場ニーズを的確に捉えたタイムリーな製品投入、新興国市場への展開、各業務プロセスのスピード向上と連携強化などを行い、主力事業の強化・拡大に努めました。さらに、新規事業の創出にも引き続き取り組み、また、震災経験を踏まえリスク管理体制を整備・強化しました。

これらの結果、第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は4,863億9百万円、前年同期比882億84百万円(22.2%)の増加、営業利益は611億73百万円、前年同期比460億2百万円(303.2%)の増加、経常利益は651億53百万円、前年同期比473億38百万円(265.7%)の増加、四半期純利益は504億37百万円、前年同期比397億98百万円(374.1%)の増加となりました。

当社の中間配当金につきましては、業績を勘案し、1株につき17円、前年同期比12円の増配とさせていただきます。

## 通期の見通し

今後につきましては、精機事業では、半導体関連は、一部デバイスメーカーの設備抑制による市況の悪化が懸念され、液晶関連は、大型パネル向けの設備投資が冷え込む一方、中小型パネル向けの設備投資は引き続き堅調を維持するものと見込まれます。

インストルメンツ事業では、バイオサイエンス関連は公共予算の削減または執行停止・繰り延べの影響により、また、産業機器関連も半導体を中心とした市況の悪化により、いずれも厳しい状況が予想されます。

映像事業では、デジタルカメラ市場において堅調な需要が見込まれます。しかしながら、当社グループにおいては、レンズ交換式デジタルカメラの生産拠点である連結子会社Nikon (Thailand) Co., Ltd. がタイで発生した大規模洪水による浸水被害を受け、本年10月6日に操業を停止しました。

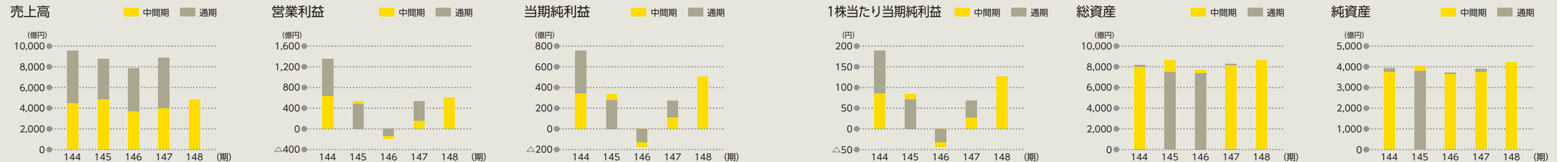
このような状況の下、当社グループといたしましては、浸水被害に対し、社長を本部長とする緊急対策本部のもと、支援体制を構築し一日も早い復旧に努めるとともに、生産設備の新規調達やグループ全体での生産体制の見直しなどにより、供給回復に向けたあらゆる対応を講じております。

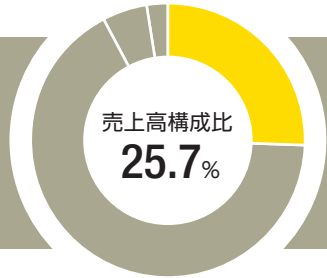
また、新たな価値を提供できる製品のタイムリーな市場投入に努め、主力事業のさらなる強化・拡大を図るとともに、新規事業の創出により、ニコンブランドを一層拡がりのあるものとしてまいります。さらに、引き続き、各事業機能の連携強化による事業プロセス全体の最適化、販売・サービス拠点のグローバルな展開を図り、事業ごとの分権経営の推進とコーポレート機能の強化、より強固なリスク管理体制の整備にも取り組んでまいります。

これらの施策を通じて、常に新たな価値を提供し、成長し続けることができる二コグループを目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年11月





## 精機事業

パソコン、携帯電話をはじめとする各種情報機器へ搭載される半導体の生産に欠かせない半導体露光装置事業と、薄型テレビやスマートフォンなどに使用される液晶パネルや有機ELパネルの生産を支える液晶露光装置事業から成り、光利用技術及び精密技術を核とした、最先端の商品・サービスを提供しています。

### 当上半期の概況

当事業関連市況は、半導体関連分野及び液晶関連分野のいずれにおいても、前期に引き続きメーカー各社の設備投資が堅調に推移しました。このような状況の下、半導体露光装置分野では、ダブルパターニングに対応した最先端のArF液浸スキャナー「NSR-S620D」を中心に拡販に努めました。

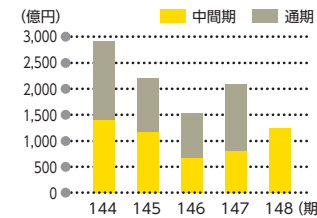
液晶露光装置分野では、スマートフォン・タブレット型端末などに用いられる高精細な中小型液晶ディスプレイの製造に最適な装置が好調に推移し、第8世代のプレートサイズ対応機種も売上げを伸ばしたほか、新製品の開発にも注力しました。

また、事業全体を通じて工期短縮やコスト削減など、事業体質強化への取り組みにも継続して努めました。

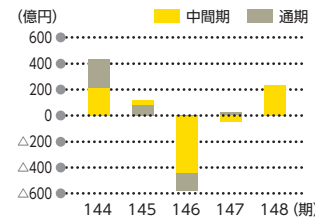
これらの結果、当事業の売上高は1,248億16百万円、前年同期比54.6%の増加、営業利益は232億69百万円(前年同期は47億30百万円の営業損失)となりました。



売上高 1,248億16百万円  
前年同期比 54.6%増

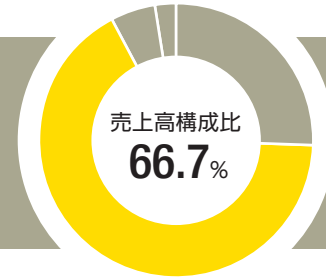


営業利益 232億69百万円  
前年同期は△47億30百万円



#### 主要製品

- 半導体露光装置
- 液晶露光装置



## 映像事業

プロ仕様から初心者向けまでラインナップを取り揃えたレンズ交換式デジタルカメラ\*1や交換レンズ、高性能で使いやすいコンパクトデジタルカメラのクールピクス<sup>TM</sup> COOLPIXシリーズなどの映像関連商品や、その周辺領域の商品・サービスを提供しています。

### 当上半期の概況

当事業関連市況のうち、デジタル一眼レフカメラ市場は、国内は震災の影響もあり縮小しましたが、米国・欧州・アジアは拡大し、一方、コンパクトデジタルカメラ市場は各地域とも縮小しました。

このような状況の下、デジタル一眼レフカメラは、本年4月に発売した「D5100」が堅調に推移し、ミドルクラス機「D7000」や「D90」、エントリー機「D3100」などの既存製品の拡販にも努め、市場の伸びを上回る販売数量の増加を達成しました。

コンパクトデジタルカメラは、「COOLPIX P500」や「COOLPIX P300」などをはじめとする高価格帯製品のPシリーズが大幅な販売増となったことに加え、Sシリーズも引き続き好調に推移し、市場の縮小にもかかわらず販売数量を伸ばし、欧州を中心に順調にシェアを拡大しました。

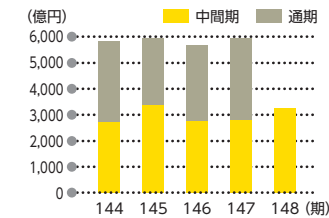
交換レンズは、デジタル一眼レフカメラとのセット販売レンズを中心に順調に売上げを伸ばしました。

また、新たな映像表現とその楽しみ方を提案するレンズ交換式アドバンスカメラ「Nikon 1」<sup>TM</sup>を全世界で発表したほか、新興市場における販売拠点の拡充にも取り組みました。

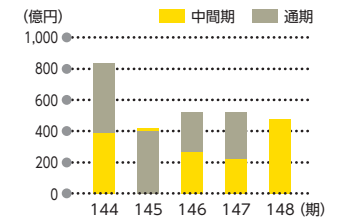
これらの結果、デジタル一眼レフカメラ、コンパクトデジタルカメラ、交換レンズとも上半期としては過去最高の販売数量を記録し、当事業の売上高は3,245億46百万円、前年同期比15.1%の増加、営業利益は474億17百万円、前年同期比105.7%の増加となりました。



売上高 3,245億46百万円  
前年同期比 15.1%増



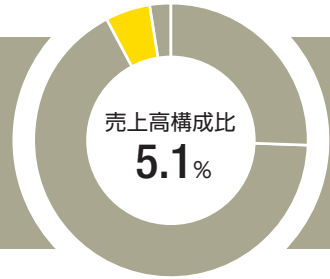
営業利益 474億17百万円  
前年同期比 105.7%増



#### 主要製品

- レンズ交換式デジタルカメラ\*1
- コンパクトデジタルカメラ
- 交換レンズ
- フィルムカメラ
- 望遠鏡\*2

\*1 当期よりデジタル一眼レフカメラと新たに展開するレンズ交換式アドバンスカメラをあわせてレンズ交換式デジタルカメラとしております。 \*2 当期より「望遠鏡事業」を「その他の事業」から「映像事業」に移管しております。詳細は6頁に記載しております。



## インストルメンツ事業

バイオテクノロジー研究を支える生物顕微鏡などを扱うバイオサイエンス事業と、精密機械部品や半導体関連などで使用される工業用顕微鏡、測定機、半導体検査装置を扱う産業機器事業から成り、最新のデジタル技術と伝統の光学技術を融合した商品・サービスを提供しています。



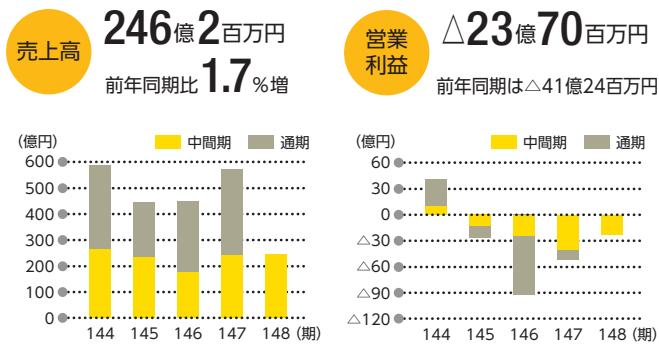
超解像顕微鏡システム「N-SIM」  
※画像は研究用倒立顕微鏡「Ti-E」に装着時

### 当上半期の概況

当事業関連市況のうち、バイオサイエンス事業関連は公共予算縮小の影響を受け厳しい環境となりました。産業機器事業関連はスマートフォン・携帯端末関連が好調に推移する反面、半導体関連の設備投資抑制の影響を受けました。

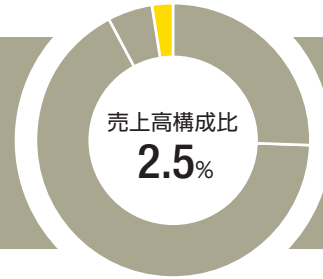
このような状況の下、バイオサイエンス事業では、超解像顕微鏡システム「N-SIM」、[N-STORM]などハイエンドのシステム商品を中心に拡販に努めました。産業機器事業では、スマートフォン・携帯端末市場が好調に推移したことにより関連市場向けの測定顕微鏡などを中心に販売を伸ばし、前年同期の売上げを上回りました。

これらの結果、当事業の売上高は246億2百万円、前年同期比1.7%の増加、営業損失は23億70百万円(前年同期は41億24百万円の営業損失)となりました。



#### 主要製品

- 生物顕微鏡
- 工業用顕微鏡
- 測定機
- 半導体検査装置



## その他の事業

宇宙関連製品をはじめとする特注機器を扱うカスタムプロダクツ事業、最先端の液晶ディスプレイ用パネルを製造するために欠かせない液晶フォトマスク基板などを扱うガラス事業などがあります。

### 当上半期の概況

カスタムプロダクツ事業では宇宙関連製品、光学部品や固体レーザー、ガラス事業では液晶フォトマスク基板などの拡販にそれぞれ努めました。

この結果、これら事業の売上高は123億43百万円、前年同期比12.1%の増加、営業利益は10億94百万円、前年同期比11.6%の増加となりました。

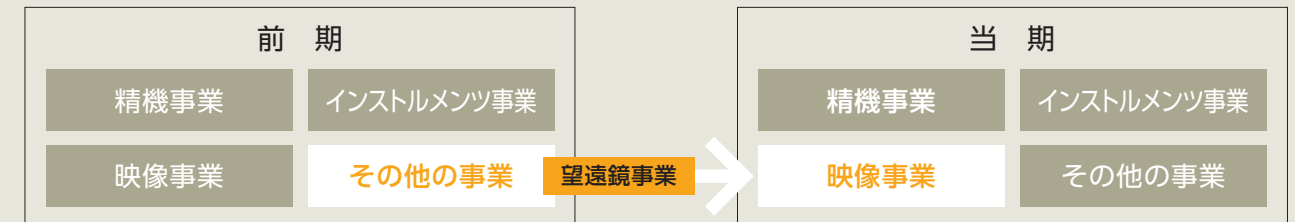


#### 製品

- 特注機器
- 液晶フォトマスク基板

### 事業セグメント変更のお知らせ

当期より「望遠鏡事業」を「その他の事業」から「映像事業」に移管しております。これに伴い、映像事業及びその他の事業の前年同期比の算出については、前年同期実績を新区分に組み替えて対比しております。



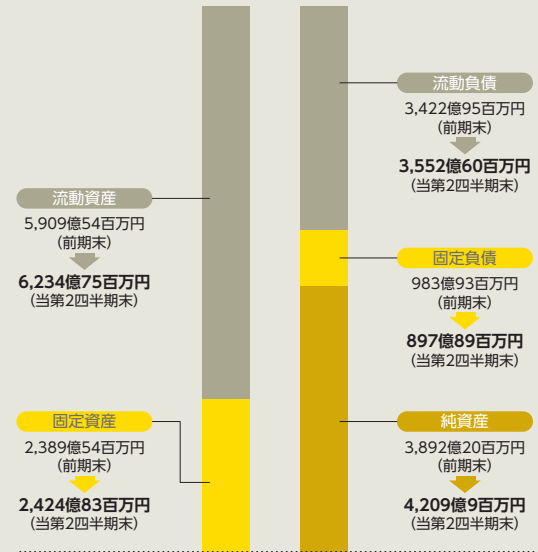
連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末	前連結会計年度末	
	平成23年9月30日現在	平成23年3月31日現在	
資産の部	流動資産	623,475	590,954
	固定資産	242,483	238,954
	有形固定資産	119,976	119,016
	無形固定資産	39,082	39,473
	投資その他の資産	83,424	80,465
資産合計	865,958	829,909	
負債の部	流動負債	355,260	342,295
	固定負債	89,789	98,393
	負債合計	445,049	440,689
純資産の部	株主資本	450,856	405,241
	資本金	65,475	65,475
	資本剰余金	80,711	80,711
	利益剰余金	317,751	272,227
	自己株式	△13,082	△13,173
	その他の包括利益累計額	△30,399	△16,448
	その他有価証券評価差額金	△339	4,450
	繰延ヘッジ損益	1,766	△696
	為替換算調整勘定	△31,826	△20,201
	新株予約権	452	427
純資産合計	420,909	389,220	
負債純資産合計	865,958	829,909	

総資産の構成

総資産 8,659億58百万円



連結貸借対照表のPOINT

- 総資産  
当第2四半期連結会計期間末における残高は、8,659億58百万円となり、前連結会計年度末に比べて360億49百万円増加しました。これはたな卸資産が増加したことが主な要因です。
- 負債  
当第2四半期連結会計期間末における残高は、4,450億49百万円となり、前連結会計年度末に比べて43億60百万円増加しました。これは退職給付信託への拠出により退職給付引当金が減少したものの、支払手形及び買掛金、並びに未払法人税等が増加したことが主な要因です。
- 純資産  
当第2四半期連結会計期間末における残高は、4,209億9百万円となり、前連結会計年度末に比べて316億88百万円増加しました。これは四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことなどによるものです。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	自平成22年4月1日 至平成22年9月30日
売上高	486,309	398,025
売上原価	291,337	258,946
売上総利益	194,971	139,078
販売費及び一般管理費	133,798	123,907
営業利益	61,173	15,170
営業外収益	5,317	5,850
営業外費用	1,337	3,206
経常利益	65,153	17,814
特別利益	84	25
特別損失	223	5,816
税金等調整前四半期純利益	65,014	12,023
法人税、住民税及び事業税	14,577	1,384
少数株主損益調整前四半期純利益	50,437	10,639
四半期純利益	50,437	10,639

連結包括利益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	自平成22年4月1日 至平成22年9月30日
少数株主損益調整前四半期純利益	50,437	10,639
その他の包括利益	△13,951	△8,047
その他有価証券評価差額金	△4,790	△2,861
繰延ヘッジ損益	2,463	△153
為替換算調整勘定	△12,363	△4,759
持分法適用会社に対する持分相当額	739	△273
四半期包括利益	36,485	2,591
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	36,485	2,591

連結キャッシュ・フロー計算書

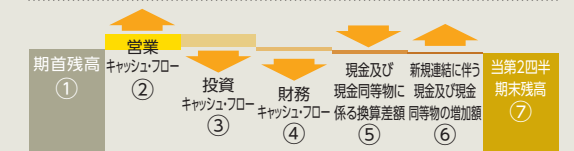
(単位:百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	自平成22年4月1日 至平成22年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	② 26,338	71,813
投資活動によるキャッシュ・フロー	③ △20,983	△6,896
財務活動によるキャッシュ・フロー	④ △6,949	△3,431
現金及び現金同等物に係る換算差額	⑤ △5,792	△3,820
現金及び現金同等物の増減額	△7,387	57,664
現金及び現金同等物の期首残高	① 181,061	104,669
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	⑥ 536	231
現金及び現金同等物の四半期末残高	⑦ 174,210	162,565

連結キャッシュ・フロー計算書のPOINT

- 営業活動によるキャッシュ・フロー：②  
当第2四半期連結累計期間は、263億38百万円の収入(前年同期は718億13百万円の収入)となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益650億14百万円を計上したものの、退職給付信託への拠出による退職給付引当金の取崩し、たな卸資産の増加361億66百万円及び前受金の減少73億21百万円があったこと等によるものです。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー：③  
当第2四半期連結累計期間は、209億83百万円の支出(前年同期は68億96百万円の支出)となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出135億14百万円によるものです。
- 財務活動によるキャッシュ・フロー：④  
当第2四半期連結累計期間は、69億49百万円の支出(前年同期は34億31百万円の支出)となりました。これは、主に配当金の支払55億42百万円によるものです。

キャッシュ・フローの推移





ニュース

デジタルカメラの新領域を創造するブランド

# 「Nikon 1 (ワン)」誕生

光学技術に基づいた革新的な製品を開発し続けて約1世紀。ニコンは次の100年に向けて、新たな映像写真の楽しみ方や価値を提案する新デジタルカメラシステムの新ブランド、レンズ交換式アドバンスカメラ「Nikon 1」を市場投入し、シリーズ第1弾として「Nikon 1 J1」、「Nikon 1 V1」を発売しました。



## Nikon 1 J1



## Nikon 1 V1



### ●ブランドコンセプト

デジタルカメラの普及などにより、カメラはさらに身近で重要な役割を果たす存在となりました。そして、これからの時代を牽引する、本当に必要なコミュニケーションツールとしてのカメラとは何かを追求した結果、「瞬間の中に潜む、特別な一瞬を、逃さない。」というブランドコンセプトが生まれました。このコンセプトを突き詰めて完成したのが、誰もが気軽に持ち歩け、捉えた一瞬の感動をすぐにシェアできる新デジタルカメラシステム「Nikon 1」です。

# Nikon 1

このネーミングには、デジタル時代に、ゼロベースで新設計された新しいシステムカメラ、つまり「0(ゼロ)」から「1(ワン)」を生み出し、デジタル世界を牽引するという思いが込められています。

### レンズ交換式 アドバンスカメラ

デジタルカメラの新領域を創造する「Nikon 1」の 카테고리名称。ニコンの提案する「レンズ交換式アドバンスカメラ」は、ニコンのカメラとNIKKORレンズの技術を小型軽量のボディに凝縮するだけでなく、新しい映像体験を通じた感動の具現化を目指しています。

世界最小・最軽量\*1レンズ交換式デジタルカメラ

## 「Nikon 1 J1」、「Nikon 1 V1」の主な特長

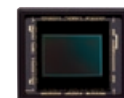
### 新開発レンズマウントシステム 「Nikon 1マウント」

小型・高性能を実現した新開発のレンズマウントシステム。専用交換レンズのほか、マウントアダプター「FT1」\*2の装着で「Fマウント」のNIKKORレンズも使用できます\*3。



### 新開発「スーパーハイスピードAF CMOSセンサー」

ニコンの新たな撮像フォーマット「ニコンCXフォーマット」のCMOSセンサー。レンズ交換式デジタルカメラとしては世界初\*4、撮像面位相差AFを搭載し、世界最速AF\*5を誇ります。



### 世界最速AF\*5、世界最多AFフォーカスポイント数\*6を誇る新開発「アドバンスハイブリットAFシステム」

合焦時間が短く、動体への追従性に優れている位相差AFと低輝度に強いコントラストAFの2つを備えた「アドバンスハイブリットAFシステム」を採用しており、様々な撮影条件で最適なピント合わせを実現します。

### 新画像処理エンジン「EXPEED 3」

ニコン独自の包括的画像処理コンセプト「EXPEED」を基に、「Nikon 1」向けに最適化した新画像処理エンジン「EXPEED 3」を搭載し、高速化と高性能化を同時に実現しました。



### フルHD動画と静止画の融合 「モーションスナップショット」

静止画とその前後の僅かな時間を高解像度のスローモーション動画として記録。シャッターボタンを押すだけで、エモーショナルな映像表現を可能にします。

### ベストショットを簡単撮影 「スマートフォトセレクト」

シャッターを切った前後も自動的に撮影。撮影完了後、ベストショットを自動的に選び表示します。

### 軽量、コンパクトボディで 簡単操作

日常使いを想定した、持ち歩きに便利な軽量、コンパクトなボディ。操作も4つの撮影モード(モーションスナップショット、スマートフォトセレクト、静止画、動画)を切り替えるだけで、感じのまま簡単に撮影できます。



### エアギャップレス構造採用の 広視野角液晶モニター

「Nikon 1 J1」が3型約46万ドット、「Nikon 1 V1」が3型約92万ドットの広視野角液晶モニターは、保護ガラスと液晶パネルの間に空気層がないエアギャップレス構造を採用。薄型化を達成するとともに屋外での視認性も高く、きれいな画像を楽しめます。

\*1 「Nikon 1 V1」のみ。電子ビューファインダー(EVF)内蔵型レンズ交換式デジタルカメラにおいて。2011年9月21日現在、当社調べ。\*2 近日発売予定。\*3 使用条件やレンズによってAFが合いにくい場合があります。一部レンズにおいて装着や機能に制限があります。\*4 レンズ交換式デジタルカメラとして。2011年9月21日現在、当社調べ。\*5 2011年9月21日現在、発売済みのレンズ交換式デジタルカメラにおいて。シングルエリアAF時、F1 NIKKOR VR 10-30mm f/3.5-5.6iを装着時、ワイド端使用時において。当社測定条件による。\*6 2011年9月21日現在、発売済みのレンズ交換式デジタルカメラにおいて。シングルポイントAF時に選択可能な位相差AFポイント数。当社調べ。

ニュース

**「D7000」がEISA アワードを受賞**



欧州を代表する権威ある賞「EISA アワード」において、デジタル一眼レフカメラ「D7000」が「ヨーロッパ アドバンスドSLRカメラ 2011-2012」を受賞しました。「D7000」は、有効画素数16.2メガピクセル、ニコンDXフォーマットCMOSセンサーを搭載した中級モデル。明るい3型液晶モニターとSDXCカード対応のダブルスロット、フルHD動画撮影、卓越したノイズ制御システムなどを搭載している点が評価されました。なお同機は、本年4月に「TIPA ベスト アドバンスド デジタル一眼レフカメラ」も受賞しています。



D7000

ニュース

**日経ビジネス誌「2011年版アフターサービス満足度ランキング」のデジタルカメラ部門で第1位**

ニコン及びニコンイメージングジャパンは、「日経ビジネス誌」による「2011年版アフターサービス満足度ランキング」において、デジタルカメラ部門アフターサービス満足度第1位を獲得しました。今回の結果により過去12回の調査において、8度目の1位となりました。

ニコン及びニコンイメージングジャパンでは、多くのお客様へより良いサービスやサポートを提供するためのさまざまな取り組みを

継続的に実施しています。また、2011年3月11日に発生した東日本大震災により、被災地域のお客様が所有する当社映像製品にも多大な被害があり、アフターサービスも特別態勢で臨みました。今回の評価はこうした取り組みが評価された結果と捉え、今後お客様のニーズや期待にお応えできる製品の提供、サービスの向上に努めてまいります。

ニュース

**タイ、ブラジルにおいて販売会社を設立、営業開始**

ニコンは、近年高い経済成長を見せるタイとブラジルにおいて、販売会社である「Nikon Sales (Thailand) Co., Ltd.」と「Nikon do Brasil Ltda.」を設立し、2011年4月より営業を開始しました。

現地法人設立により、これまで代理店を通じて行っていた販売・サービス活動をさらに強化。マーケティングから販売、カスタマーサ

ポート、アフターサービスまで一貫した体制を構築し、お客様へのサービス向上を図ります。さらに戦略的なマーケティング活動、効果的な広告投資により販売拡大とブランドの浸透を図り、市場でのニコンのプレゼンスを一層高めてまいります。

新製品

**コンパクトデジタルカメラ「COOLPIX AW100」**

ニコンのコンパクトデジタルカメラ「COOLPIX」に、アーバンアウトドア志向の新たなラインナップ「AWシリーズ」が登場しました。その第1弾となる「COOLPIX AW100」は、ニコンデジタルカメラ初の防水、耐衝撃、耐寒仕様のタフモデルで、本格防水タイプのコンパクトデジタルカメラとしてはトップクラスの薄さを、新開発の薄型屈曲レンズの採用により実現。有効画素数16.0メガピクセル、裏面照射型CMOSセンサー、フルHD動画撮影機能などの基本性能に加え、GPSや電子コンパス、世界地図表示などの機能も搭載。普段使いはもちろん、マリンスポーツやトレッキングなどのアウトドアスポーツ時の撮影に最適の1台です。



COOLPIX AW100

新製品

**研究用顕微鏡「ECLIPSE Niシリーズ」  
検査用顕微鏡「ECLIPSE Ciシリーズ」**

生物・医学における最先端の研究をはじめ、さまざまな分野で活用されている生物顕微鏡。ニコンは、その用途とニーズにあわせた研究用顕微鏡「ECLIPSE Niシリーズ」と、検査用顕微鏡「ECLIPSE Ciシリーズ」を発売しました。

研究用顕微鏡「ECLIPSE Niシリーズ」は、多様な実験手法に対応するため、各種電動アクセサリの充実などシステム拡張性を向上させるとともに、高い操作性と世界最高クラスの光学性能を実現しました。検査用顕微鏡「ECLIPSE Ciシリーズ」は、高輝度で省電力、長寿命のエコ照明とセラミックコートを採用した高耐久性のステージを備え、自然な観察姿勢を保つ調整機構によって快適性を向上させました。



ECLIPSE Ni-E

ECLIPSE Ci-L



ホームページのご案内

HP <http://www.nikon.co.jp>

当社ホームページでは、企業情報や財務情報、事業活動や製品情報などをはじめとするさまざまな情報を掲載しております。当社をよりご理解いただくためにも是非ご覧ください。

## 会社概要

社名(英文社名) 株式会社ニコン(NIKON CORPORATION)  
 本店所在地 〒100-8331 東京都千代田区有楽町1-12-1(新有楽町ビル)  
 TEL (03) 3214-5311  
 設立年月日 大正6年(1917年)7月25日  
 資本金 654億75百万円  
 従業員数 単体 6,572名/連結 24,962名

## 役員及び執行役員

### 1. 取締役及び監査役

取締役会長 苅谷 道郎  
 取締役社長 木村 眞琴  
 取締役 兼 CFO 伊藤 純一  
 取締役 諏訪 恭一 牛田 一雄 熊澤 政美 正井 俊之  
 岡本 恭幸 橋爪 規夫 松尾 憲治 樋口 公啓  
 金澤 健一  
 常勤監査役 河合 芳道 長井 良幸  
 監査役 可児 晋 上原 治也 畑口 紘

### 2. 執行役員

社長執行役員 木村 眞琴  
 副社長執行役員 伊藤 純一  
 専務執行役員 諏訪 恭一 牛田 一雄  
 常務執行役員 熊澤 政美 正井 俊之 岡本 恭幸 橋爪 規夫  
 川端 邦雄 大木 裕史 本田 隆晴  
 執行役員 金澤 健一 森下 耕二 馬立 稔和 小坂 庸雄  
 風見 一之 今 常嘉 御給 伸好 浜田 智秀  
 中島 正夫 下田 治 岩岡 徹 吉川 健二

## 事業所

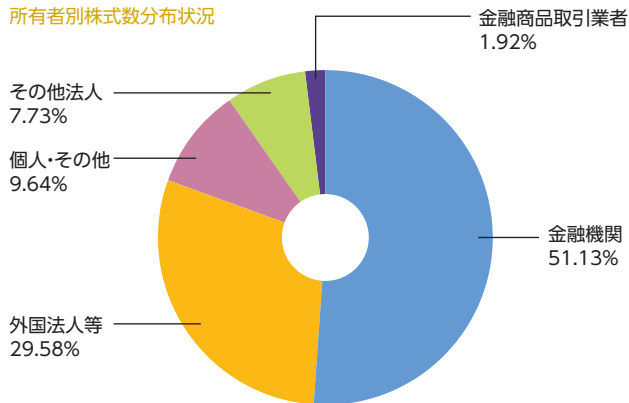
本社 〒100-8331 東京都千代田区有楽町1-12-1(新有楽町ビル)  
 大井製作所 〒140-8601 東京都品川区西大井1-6-3  
 横浜製作所 〒244-8533 神奈川県横浜市栄区長尾台町471  
 相模原製作所 〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台1-10-1  
 熊谷製作所 〒360-8559 埼玉県熊谷市御稜<sup>みいずがはら</sup>201-9  
 水戸製作所 〒310-0843 茨城県水戸市元石川町276-6

## 株式の状況

(比率は小数点以下第3位を四捨五入)

■発行済株式総数 400,878,921株  
 ■株主数 26,232名

### 所有者別株式数分布状況



### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	31,537	7.95
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	26,978	6.80
ジェーピーモルガンチェースバンク380055	24,303	6.13
明治安田生命保険相互会社	20,565	5.19
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	19,813	5.00
三菱UFJ信託銀行株式会社	9,134	2.30
東京海上日動火災保険株式会社	8,622	2.17
日本生命保険相互会社	7,893	1.99
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,378	1.86
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT – TREATY CLIENTS	7,238	1.83

(注)持株比率は自己株式数(4,371,525株)を控除して計算しております。

本中間報告書は、注記のない限り、次により記載しております。  
 1. 記載金額及び株式数は、表示単位未満の端数を切捨て  
 2. 比率は、小数点以下第2位を四捨五入

## 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

期末配当金  
 受領株主確定日 3月31日

中間配当金  
 受領株主確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

単元株式の数 100株

公告の方法 電子公告により行います。  
 ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載して行います。  
 公告掲載URL <http://www.nikon.co.jp/ir/index.htm>

株主名簿管理人  
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
 TEL 0120-232-711(通話料無料)  
 三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。

## 株式に関するお手続きについて

### ■証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先
◎郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ◎支払期間経過後の配当金に関するご照会 ◎株式事務に関する一般的なお問合せ	上記「株主メモ」記載の三菱UFJ信託銀行 証券代行部へお問合せください。
◎上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

### ■特別口座に記録された株式\*

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先
◎特別口座から一般口座への振替請求 ◎単元未満株式の買取(買増)請求 ◎住所・氏名等のご変更 ◎特別口座の残高照会 ◎株式事務に関する一般的なお問合せ	上記「株主メモ」記載の三菱UFJ信託銀行 証券代行部へお問合せください。 なお、お手続き書類につきましては、以下の方法でもご請求いただけます。
手続き書類のご請求方法	音声自動応答電話によるご請求 …… 0120-244-479 (通話料無料) インターネットによるダウンロード …… <a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>

※株券電子化制度の施行時までに証券保管振替機構(ほふり)に預託されず、その後特段のお手続きをされていない株式は、法令に基づき当社が開設している特別口座に記録されています。特別口座は証券市場での売買を行うことができないなどの制約があります。ご所有の株式が特別口座に記録されている株主様は、上記「株主メモ」記載の三菱UFJ信託銀行 証券代行部にお問合せのうえ、お早めに証券会社等の口座にお振替いただきますようお願い申し上げます。特に、株券電子化施行日に当分の単元未満株式(1株～999株)を所有されていた株主様、お手元にご株券がある株主様は特別口座が開設されている可能性がありますのでご確認ください。





株式会社 **ニコン**

〒100-8331 東京都千代田区有楽町1-12-1 (新有楽町ビル)  
<http://www.nikon.co.jp>

**UD FONT**

見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。



ミックス  
責任ある水質資源を  
使用した紙。

FSC™ C013080